

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 大学において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、講義室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館その他附属施設等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

【観点到る状況】

[土地校舎面積]

一橋大学には、主として教育・研究が行われる国立キャンパス（西キャンパス、東キャンパス）と、国際学生宿舎や課外活動施設がメインの小平国際キャンパスがある（資料 8-1-1-1）。

本学の教育研究組織を配置している主要団地である国立キャンパスの校地・校舎面積を表 8-1 に示す。

表 8-1 国立キャンパス校地・校舎面積

	実際の面積	大学設置基準上の面積
校地面積	278,138 m ² うち校舎敷地 234,138 m ² 、 屋外体育施設用地 44,000 m ²	47,370 m ² （総定員 4,737 名×10 m ² ）
校舎面積	101,261 m ² （職員宿舎を除く） ※学生 1 人当たり 21.4 m ²	22,223 m ²

[講義室]

学部・大学院教育が行われる講義室は国立西キャンパス及び東キャンパスに配置されている。建物毎の教室配置数を表 8-2 に示す。講義室は空調を完備し、一部に情報端末や AV 機器等の設備を設置し、パソコン等を利用した講義が可能であるほか、IT 機器を備えた AV 教室や LL 教室がある。

表 8-2 建物ごとの収容人員による教室配置数

キャンパス	建 物	10-49 人	50-99 人	100 人以上	計
西 キャンパス	本館		10	6	16
	第 1 講義棟	18		4	22
	第 2 講義棟	18	2	2	22
	情報教育棟	3	1		4
東 キャンパス	東本館	1		1	2
	東 1 号館	19	12	6	37
	東 2 号館	1	4	2	7
	マーキュリータワー		7	2	9
計		60	36	23	119

[自主学習・視聴覚設備・語学演習室関係]

附属図書館と情報教育棟を中心に自主学習の環境が整備されている。その概要は表 8-3 の通りである。

表 8-3 附属図書館・情報教育棟の概要

附属図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の延床面積 14,854 m²、・グループ学習室 5 室、・633 席の閲覧用座席 ・ 情報検索コーナー及び視聴覚コーナーなど……情報検索端末 91 台 (OPAC28 台、データベース端末 12 台、学内者用インターネット端末 48 台、学外者用 Web 端末 3 台)、AV 機器 6 台、マイクロリーダー 3 台、コピー機 9 台 ・ 館内の有線・無線 LAN によるキャンパスネットワークに自由に接続できるオープンアクセスフロア環境 ・ 公開展示室……展示ケース 13 台、常設展示や学内のイベントの併せた企画展示を行い大学発展の歴史等を社会に公開 ・ 研修セミナー室……PC 端末 20 台、PC プロジェクター、情報リテラシー教育や講演会、会議などに利用
情報教育棟	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開館時間 授業開講期間 8:40~20:00、休講期間 8:40~17:00 ・ 自習専用として 41 台の PC を配置、授業の空き時間には建物内にある他の 163 台の PC を利用し自習室として利用可能。

[運動場・体育館]

国立キャンパスでは表 8-4 の通り、授業及び課外活動を実施するための体育施設があり、小平国際キャンパスには課外活動用の体育施設がある。国立キャンパスにある体育館は、午前には講義に、午後は課外活動をメインにほぼ終日利用されている (資料 8-1-1-2)。

表 8-4 国立キャンパス・小平国際キャンパスの課外活動施設

国立キャンパス	体育館、陸上競技場、ハンドボールコート、バレーコート、硬式・軟式テニスコート、硬式野球場、ゴルフ練習場、弓道場、ホッケー場、武道場、多目的グラウンド、ラグビー場
小平国際キャンパス	体育館、武道場、サッカー場、アメフト場、洋弓場、プール (50m)

[バリアフリー化]

EV、スロープ、身体不自由者用便所等を設置している (資料 8-1-1-3)。建物内部では段差がないようにし、本館には身体不自由者用の控え室を設けた。小平国際キャンパスにある国際学生宿舎及び国立キャンパスの近くにある国際学生宿舎中和寮には、身体不自由者用寮室を小平に 2 室、国立に 1 室設け、国内外の身体不自由な学生の受入に備えている。

なお、本学の基本理念に基づき、施設設備の整備・有効活用及び維持管理を推進するための施設マネジメント体制を整備している (資料 8-1-1-4)。

資料 8-1-1-1 「施設配置図」(『一橋大学案内 2007』、36 頁)

資料 8-1-1-2 国立団地体育館使用時間割表

資料 8-1-1-3 一橋大学バリアフリー対応キャンパスマップ (国立キャンパス)

資料 8-1-1-4 一橋大学の戦略的施設マネジメント (概要版)

【分析結果とその根拠理由】

主要キャンパスである国立キャンパスでは、校地・校舎とも大学設置基準で必要な面積を大幅に上回っている。講義室は、情報端末の整備、プロジェクター機器等の設置、全講義室の空調設備設置等を行い、教育効果改善と有効利用のための整備を図っている。自主学習環境として附属図書館にグループ学習室、閲覧室、情報検索コーナー、視聴覚コーナーを設け、有線・無線 LAN によりキャンパスネットワークに自由に接続できるオープンアクセスフロアを提供している。また、情報教育棟は、端末教室として授業と自習に利用できる。運動施設に関しては、授業及び課外活動に対応できる施設が国立キャンパス・小平国際キャンパスに整備されている。

バリアフリーについては、建物内外の段差解消、所要建物の EV 及び身体不自由者用便所等が整備されている。

以上のことから、教育研究に必要な施設・設備が十分に整備され、有効に活用されていると判断する。

観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが適切に整備され、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

情報ネットワークは総合情報処理センターにより一元的に管理されている。ハードウェアは、総合情報処理センターと学内全室の情報コンセントに接続された端末パソコン群、及び通信ケーブル網で構成される。また、図書館、講義室にオープンな無線、有線の LAN が順次整備されており、利用者は総合情報処理センターのアカウント認証をするだけで利用できる。

国立キャンパスの学内ネットワークはファイアウォールを介して東京工業大学の SINET ノードに接続され、学外情報網と通信可能である。神田キャンパスには、この SINET ノードを経由し接続している。また、小平国際キャンパスとの接続のため広域イーサネットを用意している。

学生は各部屋内の情報コンセント、または無線 LAN を通して、本ネットワークに容易に接続ができる。国立西キャンパスには合計 204 台の PC を備えた情報教育棟があり、PC を用いた授業に利用されている。国立東キャンパスには CALL システムを搭載した合計 88 台の端末を備えた LL 教室があり、語学授業に利用されている。他にも国立東キャンパスには、30 台の PC を備えた授業用 PC ルームと、36 台の PC を備えた学生用自習室がある。

平成 18 年度の授業時間における使用状況をみると、夏学期には 55 コマ、冬学期には 53 コマの授業で利用されている（資料 8-1-2-1）。

いずれの教室でも学生は授業時間外でも、総合情報処理センターの認証システムを通して PC を自由に利用し、Eメールの利用や語学学習、情報処理学習、インターネット利用を行うことができる。利用時間は授業開講期間は 8:40~20:00 まで、休講期間は 8:40~17:00 までとなっている。

また、総合情報処理センターの e-learning システムである WebClass は、学内・学外のネットワークから利用できるシステムとなっており、これを利用している授業は、平成 18 年度 182 授業、利用者数は延べ 4,285 人となっている。

資料 8-1-2-1 平成 18 年度一橋大学 PC 教室利用状況一覧

【分析結果とその根拠理由】

情報ネットワークの整備状況については、各研究室、講義室への情報コンセントの設置、オープンスペースにおける無線 LAN の整備等、積極的に進められている。情報教育棟の利用については、授業時間以外は演習室を解放し、夜間開館を行う等、学生のニーズに配慮している。

以上のことから、学生のニーズを満たす情報ネットワークが適切に整備され、有効に活用されていると判断する。

観点 8-1-③： 施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、構成員に周知されているか。

【観点に係る状況】

附属図書館、学内共同教育研究施設、研究科附属施設、課外活動施設、合宿研修施設及び学外研修施設等について、設置の目的を学内規則で規定している。各施設の利用規則はウェブサイトに記載している(資料8-1-3-1)。利用方法は、学部生全員に配布する『学士課程 履修ルールブック』に掲載する他、新入生にはガイダンスで説明している。「学生生活の手引き」(資料8-1-3-2)には、課外活動関連施設、合宿研修施設および学外研修施設の使用心得を掲載しているほか、一部施設でも利用の手引き等の冊子を作成している。

この他、情報ネットワークの有効活用と安全確保のための情報セキュリティ憲章、情報セキュリティ基準を定め(資料8-1-3-3)、新入生に対する周知の機会としてIT環境利用説明会を開いている。

資料8-1-3-1 各施設利用規則 (http://www.hit-u.ac.jp/dlw_reiki/reiki.html)

資料8-1-3-2 「学生生活の手引き」

資料8-1-3-3 「情報セキュリティ憲章」、「情報セキュリティ基準」

【分析結果とその根拠理由】

各施設・設備について運用規則を規定し、冊子が作成され、ガイダンスで説明するとともに、ウェブ上でも周知を図っている。また、情報ネットワークの有効活用のため情報セキュリティ関連規程を定め、IT環境利用説明会を行う等、情報セキュリティの強化を図っている。

以上のことから、施設・整備の運用に関する方針が明確に規定され、構成員に周知されていると判断する。

観点8-2-①： 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

【観点到に係る状況】

附属図書館は、商法講習所以来130年間を経た歴史の中で、社会科学を中心とした約173万冊の図書や約16,000タイトルの雑誌、60にも及ぶ貴重なコレクションを蓄積してきている。附属図書館の資料所蔵状況や受入資料数は表8-5、8-6の通りである。

表8-5 所蔵資料数

所蔵状況	<ul style="list-style-type: none"> ・図書1,748,175冊・学術雑誌16,361タイトル・新聞389タイトル ・視聴覚資料……マイクロフィルム759タイトル、マイクロフィッシュ131タイトル、CD-ROM・DVD-ROM135タイトル、CD・LD・DVD26タイトル、ビデオ109タイトルなど ・電子ジャーナル約3,000タイトル、データベースは社会科学系を中心に50種以上
------	---

表8-6 受入資料数

		平成16年度	平成17年度
図書(冊)	和	12,222	12,233
	洋	10,952	10,970
	計	23,174	23,203
雑誌(種類)	和	1,803	1,756
	洋	3,292	2,908
	計	5,095	4,664

また、利用環境、開館時間、開館日数、入館者数、館外貸出冊数の状況は、表 8-7～8-11 に示す。

表 8-7 図書館利用環境の概要

利用環境	<ul style="list-style-type: none"> ・図書約 100 万冊及び学術雑誌約 16,000 タイトルすべてを開架資料として、利用者が自由にブラウジングできる環境 ・貸出……原則として学部生 8 冊/2 週間、大学院生 30 冊/2 ヶ月、教職員は 70 冊/年度末、学外者 (特 B) は 10 冊/1 ヶ月
------	---

表 8-8 開館時間

	平日 (月～金)		土・日・祝日
	授業期	休業期	授業期
図書館本館	9:00-22:00	9:00-17:00	9:00-17:00
雑誌棟	9:00-21:30	9:00-17:00	9:00-16:30
大閲覧室	9:00-21:30	9:00-17:00	閉室
書庫	9:00-16:45	9:00-16:45	閉室

表 8-9 開館日数

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
平日	233	240	238
休日	85	85	83
計	318	325	321

表 8-10 入館者数

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
平日	314,852	305,439	304,338
休日	27,369	31,256	27,726
学外者数 (内数)	20,474	23,518	19,817
計	342,221	336,695	332,064

表 8-11 館外貸出冊数

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
平日	107,922	114,399	118,259
休日	9,701	11,482	11,511
学外者数 (内数)	1,356	1,389	1,419
計	118,979	127,270	131,189

購入図書は、各研究科教員及び全学共通教育委員で構成される附属図書館委員会で専門分野のバランスに配慮され選定される。また学習用図書に限り、附属図書館選書委員会で「学習用図書の趣旨、及び運用等についての指針」及び「学生用図書選定基準」に基づき統一的に選定されている。また、選書基準を満たす図書であれば、学生等からのリクエストにも対応している。加えて、授業シラバスに新たに掲載された図書は迅速に購入できる体制をとっている。購入雑誌は、附属図書館及び各研究科に予算が配分され、その枠内で各研究科が研究教育に必要な学術雑誌を購入し、系統的に附属図書館に整備している。

本学の特徴として、教員の研究費で購入する資料であっても、すべて中核である附属図書館に集中配置する中央図書館制度を採り、社会科学の総合大学として研究教育活動に沿った資料を体系的・網羅的に収集してきている。これにより教員と学生の情報アクセスの格差を限りなく小さくすると共に、資源の共有と資料費の有効活用を図っている。また、所蔵資料が有効に活用されることを期して、新着図書のコーナー展示や、公開展示室での貴重資料やコレクションの展示で、新規受入図書や所蔵コレクションの効果的な紹介と積極的な広報活動を展開している (資料 8-2-1-1)。

一方、附属図書館は、国立大学に設置された分野別外国雑誌センター館（9館）の1つとして、国内未収集の社会科学系の外国雑誌を体系的に収集・整備すると共に、世界に約500機関ある欧州連合（EU）の資料センターの1つとして、EU諸機関の主要な公式出版物や資料を備え、本学のみならず国内外の研究者のニーズに応える責務を担っている（資料8-2-1-2）。

さらに、東京医科歯科大、東京外国語大、東京工業大各図書館との連携や慶應義塾大、早稲田大、上智大各図書館との協定、国際基督教大、津田塾大、東京外国語大各図書館とのコンソーシアム等により、蔵書の横断検索や相互協力体制を実現し、双方の利用者にとっての資料の有効的な活用を図っている。（資料8-2-1-3）

図書館の利用に関する満足度について複数の調査を実施し、学生の75～80%程度が、機能が十分であるとしている（資料8-2-1-4、資料8-2-1-5）。また、朝日新聞社発行の『大学ランキング』の大学図書館部門では常に上位で、2002年版総合1位、2003年版総合1位、2004年版総合2位と続き、2008年版でも総合7位となっている。

資料8-2-1-1 所蔵資料公開展示状況

資料8-2-1-2 外国雑誌センターについて (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/ncop/>)

資料8-2-1-3 他大学図書館との連携協力(EUIJ図書館)

資料8-2-1-4 『一橋大学学生生活実態調査報告書』

資料8-2-1-5 「学生支援」に関するアンケート調査（2003年12月）

【分析結果とその根拠理由】

教育研究上必要な資料に関しては、175万冊余の社会科学系を中心とする図書や、16,000種余の学術雑誌の他、電子ジャーナルや視聴覚資料も整備されている。教員による系統的な資料購入や図書館による体系的な蔵書構築、利用者によるリクエスト制度など、三位一体の資料収集により、大学の研究教育に必要な資料が整備されていると判断できる。

また活用に関しても、利用者の利便性や効果的な利用環境に配慮すると共に、資料の積極的な展示や広報活動から活用を促進する取組、及び学外との連携協力による資料の効果的活用等の取組は評価でき、資料が有効活用されていると判断できる。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・ 講義室は、大人数講義、双方向による授業、ゼミ形式、各種メディアを利用した授業等に対応できる教室の整備が行われ、有効に活用されている。
- ・ 附属図書館では、大閲覧室をはじめ、静謐な空間を提供すると同時に、開架図書として約100万冊を提供している。また、設備面では、館内に情報検索端末91台を揃えると共に、有線・無線LANによりキャンパスネットワークに自由に接続できるオープンアクセスフロア環境を提供している。

【改善を要する点】

- ・ 今後の学生への情報サービスの提供、e-learning等授業の高度化に対応するため、そのインフラとなる無線LAN環境の整備充実を図る。今後のネットワーク時代にあっては、市販の電子ジャーナルやデータベースの

提供のみならず、学内成果物をデジタル化し、積極的に発信する学術機関リポジトリの機能を含むデジタルアーカイブセンター的な仕組みや施設・設備が必要である。

(3) 基準8の自己評価の概要

本学は、大学設置基準をはるかに上回る校地と校舎を保有し、講義室や研究室は、教育・研究組織の運営及び教育課程の実現に相応しい施設・設備を整備している。また、バリアフリーに関しては、学生・教職員が使用する主要施設において施設設備上の配慮をしている。

情報ネットワークは情報処理センターにより一元管理され、アカウント認証を受けることでネットワークを利用できる。なお、各室への情報端末の整備は完了している。

施設・設備の運用方針、情報ネットワークの有効活用や安全確保等に関して、新入生ガイダンス等で説明し、各施設利用の手引き等関係冊子の配布、ウェブサイトへの掲載などを通して、構成員に周知されている。

附属図書館においては、利用者に対して蔵書数約175万冊と、静謐な空間を提供する従来型の図書館として機能する一方で、電子図書館としてデジタル化やネットワークを介してのサービス展開を推進している。